

SpaceClaim（スペースクレーム）導入後は、製品構造の細部を確認するために必要だったクライアント様への問合せが圧倒的に少なくて済んでいます。

あいわ特許業務法人

あいわ特許業務法人様は、全国各地域の個人のお客様、企業のお客様、大学関係のお客様、海外のお客様からの依頼にもとづき、特許、実用新案、意匠、商標の出願、審判、調査、鑑定、管理、侵害関係などの業務を行い、国際特許条約を含む外国出願にも経験が深い特許業務法人様です。



所長弁理士 湯田 浩一様のお話

> 全体的な構造や部品の配置を短時間にかつ正確に把握することができます

クライアント様からいただいた三面図から製品の構造を把握していた時には、構造の細部を確認するためにしばしばクライアント様へ問合せをする必要がありました。SpaceClaim 導入後は、クライアント様からいただいた製品の 3D データを SpaceClaim に取り込んで表示することにより、短時間にかつ正確に製品を把握することができるようになりました。必要に応じて SpaceClaim の中で製品の 3D 形状を回転して背面を覗き込んだり、組立モデルで不要な部品の表示をオフまたは除去したり、断面を作成して確認することで正確に製品の機構・構造を把握することができます。

そのため SpaceClaim 導入後は、製品構造の細部を確認するために必要だったクライアント様への問合せが圧倒的に少なくて済んでいます。クライアント様の製品の 3D データを利用して特許図面を作成することで、作成の際に部品の抜けを心配する必要がなく、補正時における「新規事項の追加の禁止」を防ぐことにも役立ちます。



> 斜視図の作成時間が半減

SpaceClaim の導入以前は、実製品の写真を撮影し、それをスキャナで取り込み、輪郭をなぞって斜視図を作成していましたが、現在はクライアント様からいただいた 3D データを SpaceClaim に取込んで表示方向を調整すれば、ただちに必要な斜視図を作成することができます。

> 特許・意匠図面の作成専門会社からの紹介で知りました

SpaceClaim の導入の経緯は、クライアント様からいただいた 3D データを利用して特許図面を作成する方法を考えていた時に、以前より特許図面の作成を依頼していた特許・意匠図面の作成専門会社である有限会社トータス様から紹介してもらって SpaceClaim を知り導入しました。

*有限会社トータス様は SpaceClaim のユーザー様でもあり、特許図面の作成に SpaceClaim を活用していただいております。

> 現在の利用方法

「クライアント様から 3D データ」 ⇒ 「SpaceClaim 内に取り込んで、回転したり、手前の部品の表示をオフしたりして機構・構造を確認」 ⇒ 「組立モデルを分解、移動、断面の作成、表示方向を整えて 2D データに変換」 ⇒ 「DXF ファイル形式でターボスケッチやデジオに取り込んで特許図面に仕上げる」 いずれは SpaceClaim で 3D 形状の作成も試してみたいと考えています。

あいわ特許業務法人

住 所：東京都中央区築地 1 丁目 12 番 22 号コンワビル 4 階

電 話：（03）3524-3911

F a x：（03）3524-3912

E-mail：aiwa@aiwa-patent.jp

URL： <http://www.aiwa-patent.jp/>



販売元

株式会社 CAE ソリューションズ

102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-1-10 TUG ビル 8F

Tel: 03-3514-1506 Fax: 03-3514-1507

E-mail: sales@cae-sc.com 担当：吉野、山田